

令和6年度 少子化に関する若い世代の意識等調査結果の概要

令和7年3月

千葉県健康福祉部子育て支援課

I 調査概要

1 調査目的

本調査は今後、少子化対策を推進していく上で、少子化に関する若い世代の意識、要望等を把握することを目的として実施しました。

2 調査項目

(1) 回答者プロフィール

(2) 基礎調査：結婚観・家族観について／行政の婚活支援施策について／子どもについて／子ども・子育て支援施策について

(3) 既婚者調査：結婚について／出会いについて／婚活について

(4) 独身調査：交際について／結婚について／出会いについて／婚活について

3 調査の設計

(1) 調査地域 千葉県内全域

(2) 調査対象 県内在住の満18歳～39歳の個人

(3) 標本数 10,000人

(4) 抽出方法 住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法

(5) 調査方法 郵送配付、郵送・インターネットによる無記名回収

(6) 調査期間 令和6年10月7日～10月31日

4 回収率

(1) 有効回収数：2,693件(有効回収率:26.9%)

（ 郵送による回収数：758件
インターネット回収数：1,935件 ）

5 調査対象者数及び回収結果

地域名	地点数 実数(地点)	標本数 実数(人)	有効回収数	
			実数(人)	構成比(%)
1 千葉地域	97	1,972	511	19.0
2 葛南地域	152	3,040	841	31.3
3 東葛飾地域	126	2,480	672	25.0
4 印旛地域	54	1,080	282	10.5
5 香取地域	6	124	35	1.3
6 海匠地域	10	200	53	2.0
7 山武地域	13	260	61	2.3
8 長生地域	9	180	55	2.0
9 夷隅地域	4	64	25	0.9
10 安房地域	5	120	28	1.0
11 君津地域	24	480	124	4.6
合計	500	10,000	2,687	100.0
居住地域無回答	-	-	6	-

表1 標本数と有効回答数

II 調査結果の概要

I 基礎調査

I-1. 行政の婚活支援施策に対するイメージ(p79)

<全体結果>

行政の婚活支援施策に対する9項目のイメージについて『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を示す）の割合が最も高い項目は、「都市部に限らず県内各地で開催できる」（51.8%）となりました。

一方、『そう思わない』の割合が最も高い項目は、「自分も参加してみたい」（81.8%）となりました。

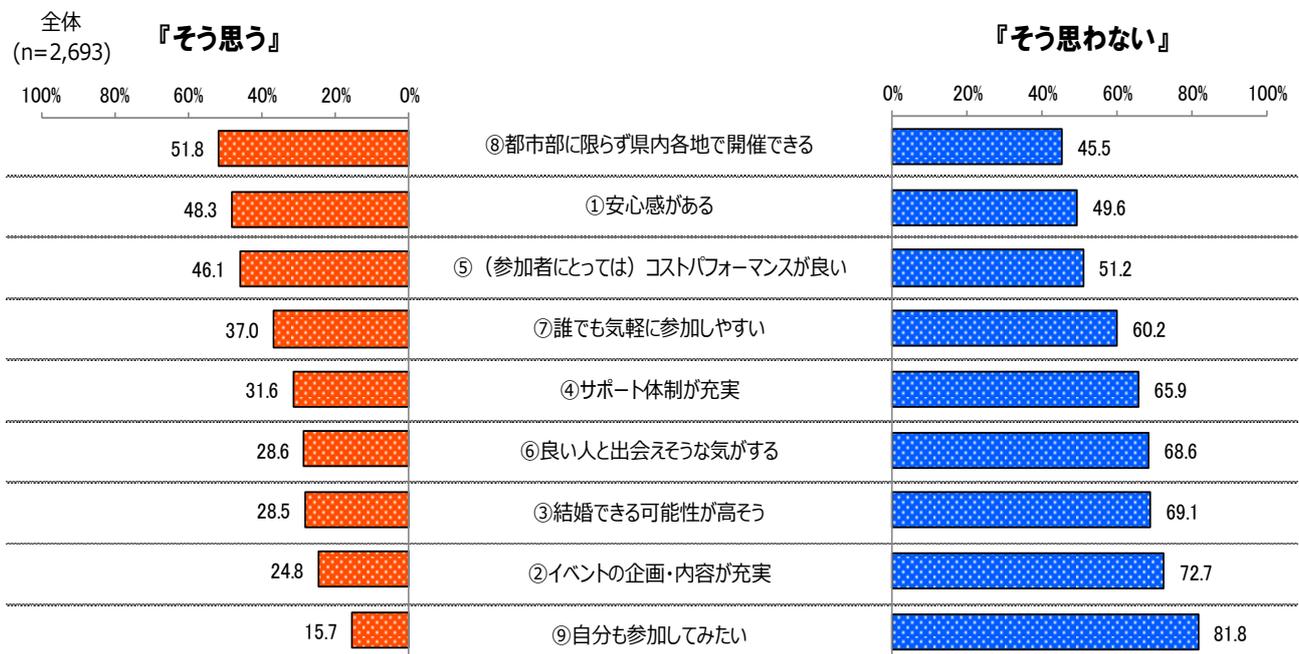


図1（問7_『そう思う』『そう思わない』比較）

Q クロス集計の特徴的な結果

✓ 「⑧都市部に限らず県内各地で開催できる」を男女別でみると、『そう思う』の割合は、女性が男性を約8ポイント上回りました。

✓ 「⑧都市部に限らず県内各地で開催できる」を婚姻状況別でみると、『そう思う』の割合は既婚が独身を約12ポイント上回る結果となりました。

1-2. 行政の婚活支援施策に求めるもの (p100) (複数回答)

<全体結果>

「行政に婚活支援施策を実施してほしい」と回答した方に求める婚活支援施策について尋ねたところ、**「婚活とは呼称しない、異業種交流会等の出会いイベントの開催」と「婚活イベントの開催」(ともに約 50%)**が最も高く、次いで**「自分磨き・スキルアップへの支援(例.メイク、ファッション、相手との話し方 等)」**(36.0%)、「**出会いに関する情報提供**」(34.4%)となりました。

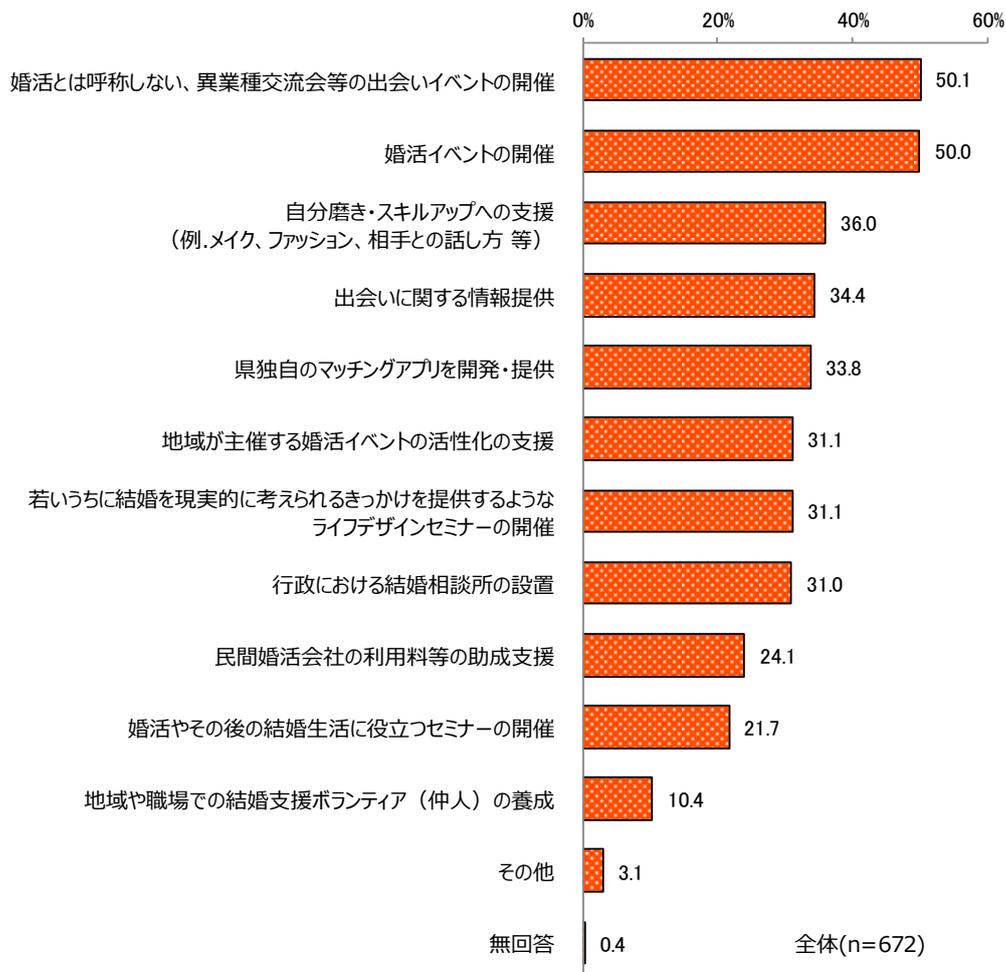


図2 (問9 行政の婚活支援施策に求めるもの)

🔍 クロス集計の特徴的な結果

- ✓男女の差が最も大きい項目は、「出会いに関する情報提供」で男性が女性を約 10 ポイント上回る結果となりました。
- ✓婚姻状況の差が最も大きい項目は、「地域が主催する婚活イベントの活性化の支援」で、既婚が独身を約 11 ポイント上回る結果となりました。

1-3. 理想の子ども数 (p109)

<全体結果>

理想の子ども数は、「2人」(54.0%)が最も高く、次いで「3人」(20.2%)、「0人」(13.4%)となりました。

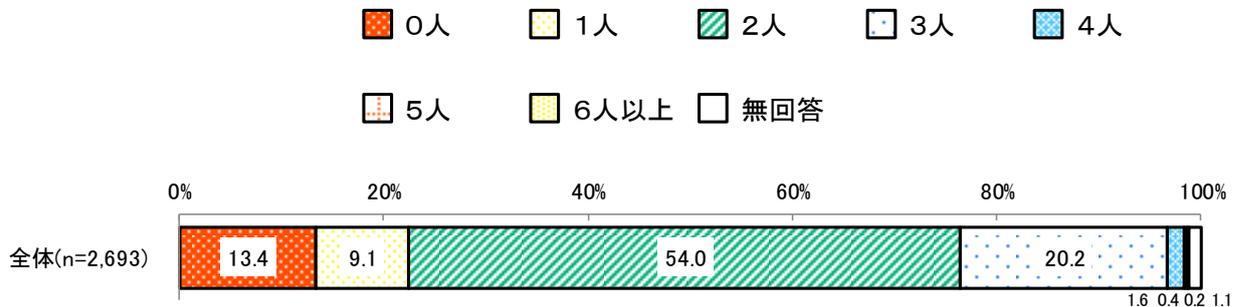


図3 (問 12 理想の子ども数)

🔍 クロス集計の特徴的な結果

✓男女の差が最も大きい人数は、「2人」と「3人」でした。「2人」では男性が女性を約4ポイント、「3人」では女性が男性を約4ポイント上回る結果となりました。

✓婚姻状況の差が最も大きい人数は、「3人」で、既婚が独身を約19ポイント上回る結果となりました。また、「0人」の項目では、独身が既婚を約18ポイント上回る結果となりました。

1-4. 予定子ども数 (p128)

<全体結果>

予定の子ども数は、「2人」(50.9%)が最も高く、次いで「0人」(16.5%)、「1人」(16.4%)となりました。

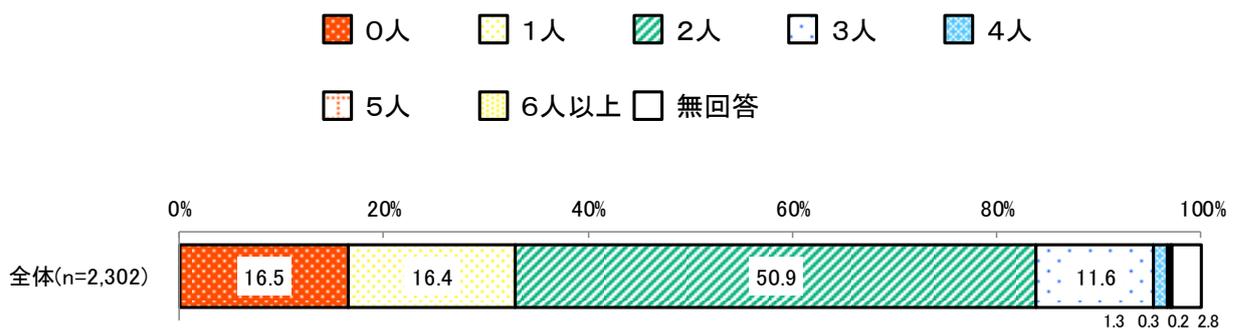


図4 (問 16 予定子ども数)

🔍 クロス集計の特徴的な結果

✓男女の差が最も大きい人数は、「0人」で、男性が女性を約3ポイント上回る結果となりました。

✓婚姻状況の差が最も大きい項目は、「0人」で、独身が既婚を約23ポイント上回る結果となりました。

1-5. 子どもを希望しない理由 (p115)

<全体結果>

理想の子ども数を「0人」と回答した方に、子どもを希望しない理由を尋ねたところ、最大の理由は、「**経済的余裕がないから**」(33.2%)が最も高く、次いで「**子育てするのが大変そうだから**」(24.1%)、「**自分のために使える時間やお金を減らしたくないから**」(13.3%)となりました。

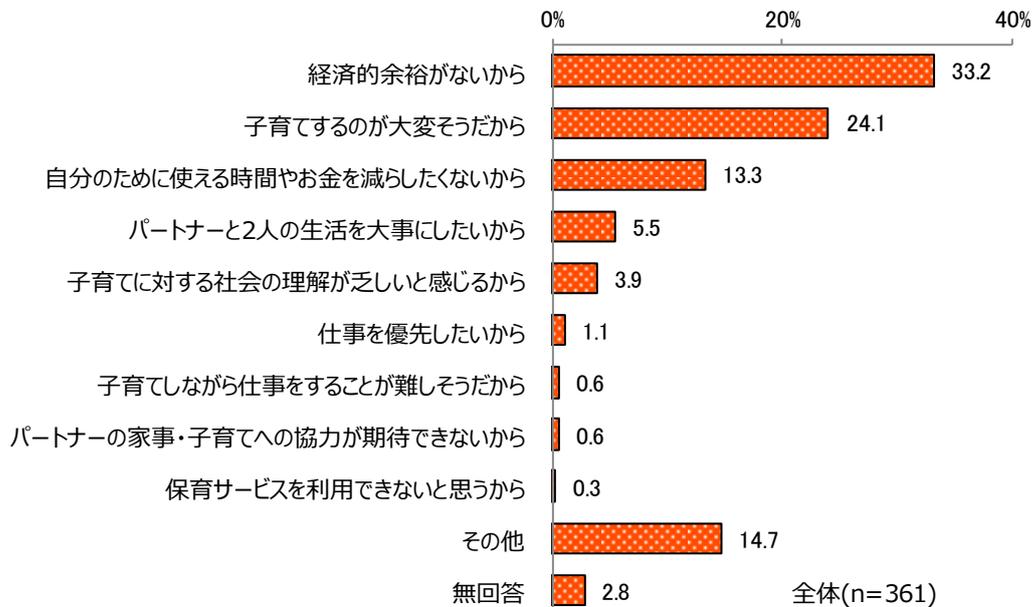


図5 (問14 子どもを希望しない理由 最大の理由)

🔍 クロス集計の特徴的な結果

✓男女の差が最も大きい項目は、「**経済的余裕がないから**」で男性が女性を約19ポイント上回る結果となりました。また、「**子育てするのが大変そうだから**」で女性が男性を約11ポイント上回る結果となりました。

✓婚姻状況の差が最も大きい項目は、「**パートナーと2人の生活を大事にしたいから**」で、既婚が独身を約33ポイント上回る結果となりました。

1-6. 子どもを希望する理由 (p121)

<全体結果>

理想の子ども数を「1人以上」と回答した方に、子どもを希望する理由を尋ねたところ、最大の理由は、「子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから」(42.4%)が最も高く、次いで「自分の子どもを持ちたいから」(19.0%)、「好きな人の子どもを持ちたいから」(14.7%)となりました。

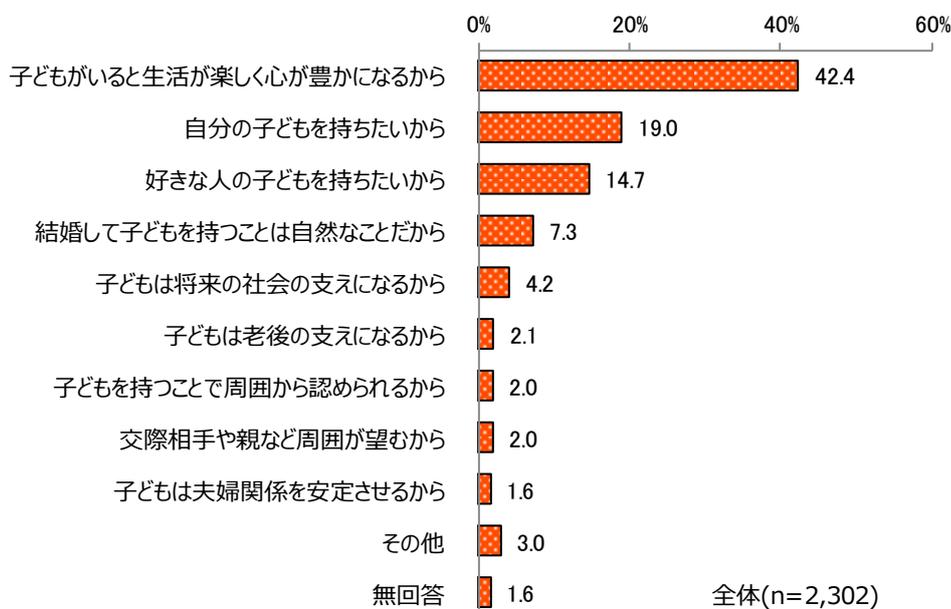


図6 (問 15 子どもを希望する理由 最大の理由)

🔍 クロス集計の特徴的な結果

✓男女の差が最も大きい項目は、「自分の子どもを持ちたいから」で、女性が男性を 7.0 ポイント上回る結果となりました。

✓婚姻状況の差が最も大きい項目は、「子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから」で、既婚が独身を 6.0 ポイント上回る結果となりました。

1-7. 理想の数の子どもを持たない理由 (p135)

<全体結果>

持つつもりの子どもの数が、理想的な子どもの数より少ない方に、理想の数の子どもを持たない理由を尋ねたところ、最大の理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」(41.2%)が最も高く、次いで「ほしいけれどもできないから」(8.5%)、「高年齢で生むのはいやだから」(4.5%)となりました。

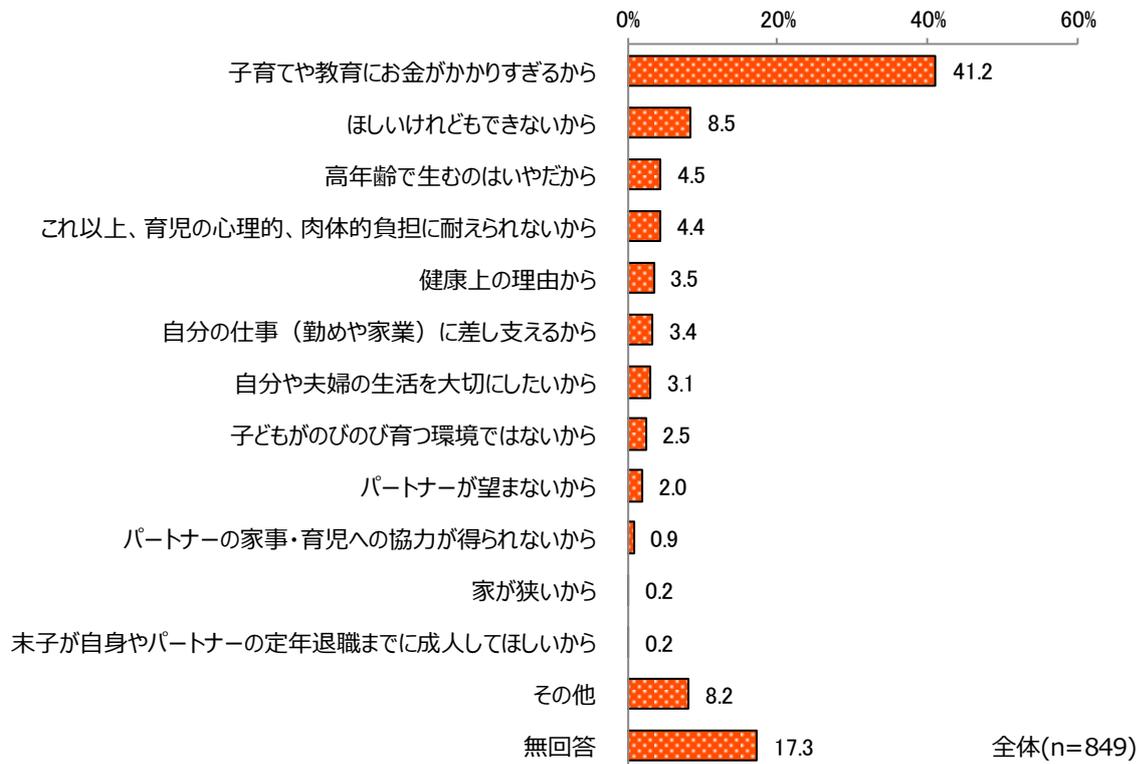


図7 (問18 理想の数の子どもを持たない理由 最大の理由)

🔍 クロス集計の特徴的な結果

✓男女の差が最も大きい項目は、「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」で、女性が男性を約5ポイント上回る結果となりました。

✓婚姻状況の差が最も大きい項目は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」で、既婚が独身を約18ポイント上回る結果となりました。

1-8. 子ども・子育て支援施策に求める取組 (p143)

<全体結果>

本県の子ども・子育て支援施策に求める取組の第1位は、「現金給付など、家庭の経済的負担の軽減」(46.3%)が最も高く、次いで「保育所や放課後児童クラブなど、子どもの預かり場所の整備」(23.0%)となりました。

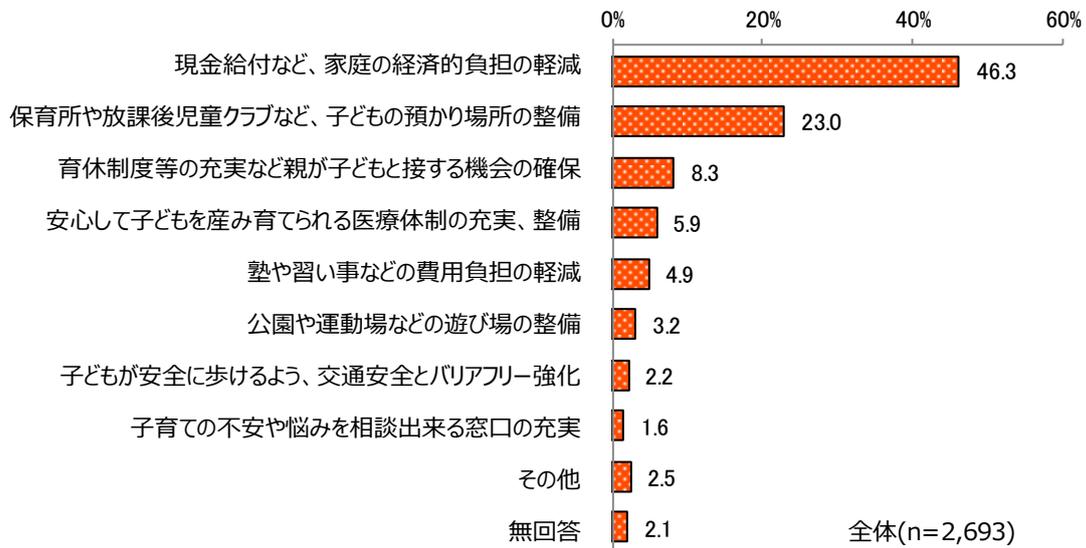


図8 (問 20 子ども・子育て支援策に求める取組 第1位)

🔍 クロス集計の特徴的な結果

- ✓男女の差が最も大きい項目は、「安心して子どもを産み育てられる医療体制の充実、整備」で女性が男性を約3ポイント上回る結果となりました。
- ✓婚姻状況の差が最も大きい項目は、「現金給付など、家庭の経済的負担の軽減」で、既婚が独身を約6ポイント上回る結果となりました。

2 既婚者調査

本調査では、「結婚している」とは事実婚も含みます。

2-1. 結婚を決めた最終的なきっかけ(p152)

<全体結果>

結婚を決めた最大のきっかけは、「年齢的に適当な時期だと感じた」(40.3%)が最も高く、次いで「できるだけ早く一緒に暮らしたかった」(19.9%)となりました。

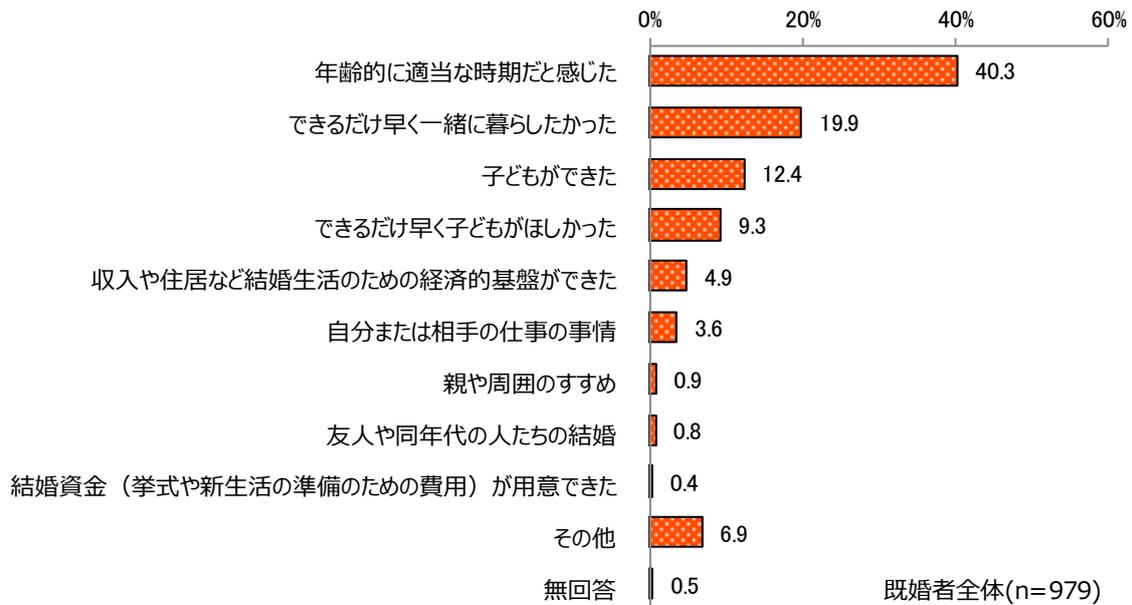


図9 (A2 結婚を決めた最終的なきっかけ 最大のきっかけ)

🔍 クロス集計の特徴的な結果

✓男女の差が最も大きい項目は、「年齢的に適当な時期だと感じた」で男性が女性を約2ポイント上回る結果となりました。

2-2. 結婚相手を決める重視項目 (p158)

<全体結果>

結婚相手を決める8項目について『重視する』（「重視する」と「ある程度考慮する」の合計を示す）の割合が最も高い項目は、「相手の人から」(99.2%)となりました。

一方、「あまり関係ない」の割合が最も高い項目は、「相手の学歴」(52.2%)となりました。

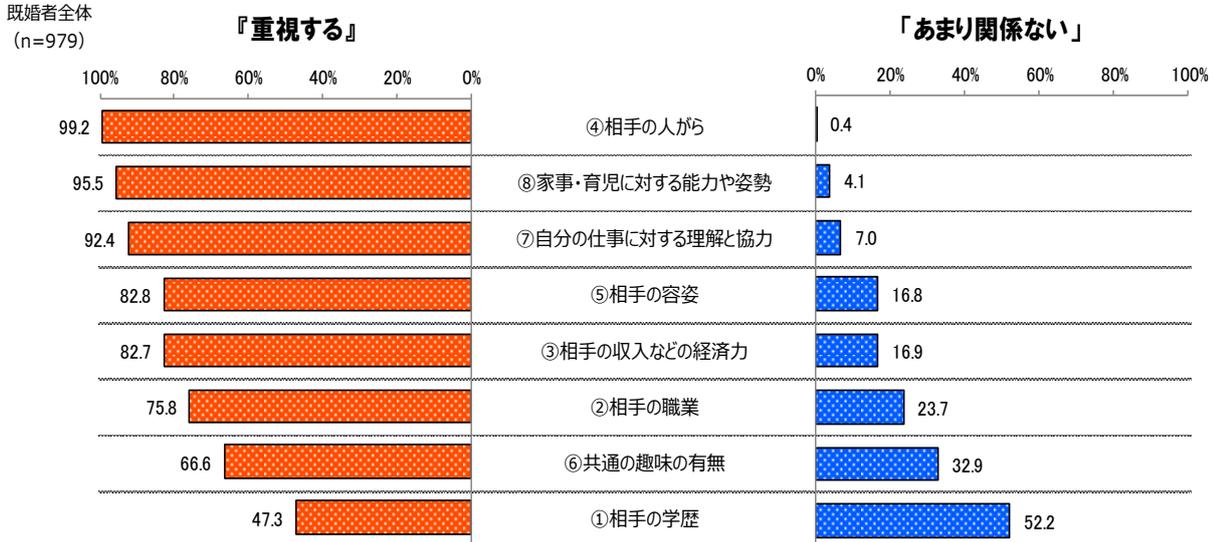


図 10 (A3 『重視する』『あまり関係ない』比較)

🔍 クロス集計の特徴的な結果

✓ 結婚相手を決める8項目について、『重視する』の割合で最も男女の差がみられた項目は、「③相手の収入などの経済力」で、女性が男性を約 36 ポイント上回る結果となりました。

✓ 結婚相手を決める8項目の『重視する』の割合について、男女差が1ポイント以上あった項目数は、男性が2項目、女性が4項目となりました。

【男性が女性を上回る項目】

- ⑤相手の容姿 (+約 10p)
- ⑥共通の趣味の有無 (+約 9p)

【女性が男性を上回る項目】

- ③相手の収入などの経済力 (+約 36p)
- ②相手の職業 (+約 26p)
- ①相手の学歴 (+約 12p)
- ⑧家事・育児に対する能力や姿勢 (+3.0p)

*p・・・ポイント

2-3. 結婚相手との出会いのきっかけ (p174) (複数回答)

<全体結果>

結婚相手との出会いのきっかけは、「職場や仕事の関係で」(31.9%)が最も高く、次いで「友人や知り合いを通じて」(22.8%)となりました。

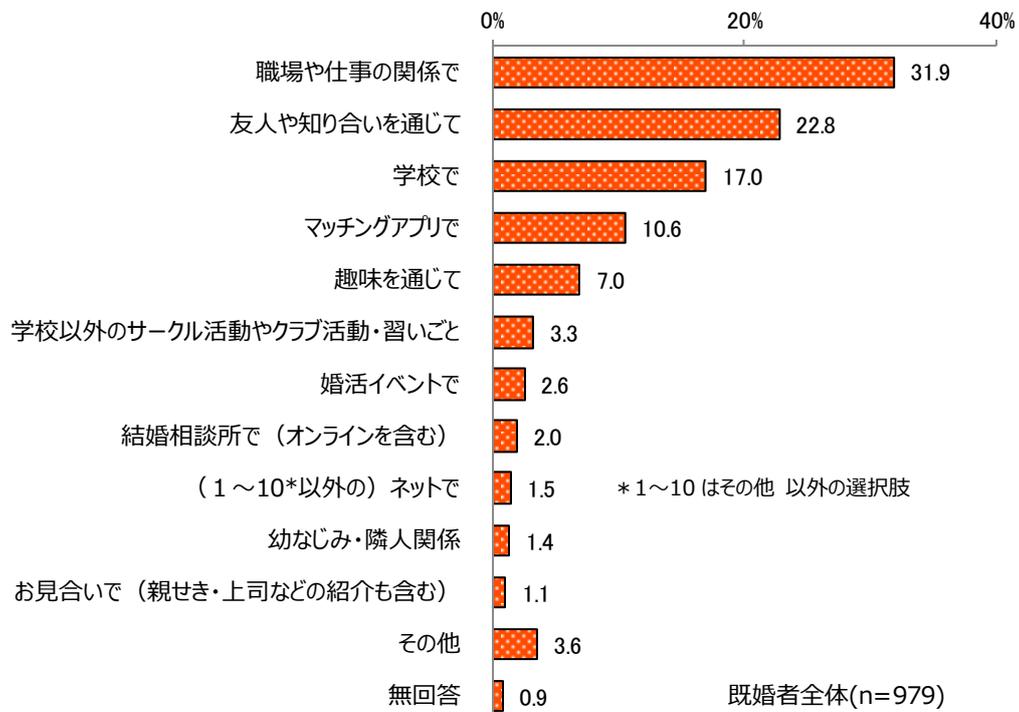


図 11 (A4 結婚相手との出会いのきっかけ)

🔍 クロス集計の特徴的な結果

✓男女差が最も大きい項目は、「友人や知り合いを通じて」で女性が男性を約7ポイント上回る結果となりました。

3 独身調査

3-1. 交際に関する不安事項 (p190) (複数回答)

<全体結果>

これまで恋人として交際経験がないと答えた方の交際に関する不安事項は、「そもそも出会い方がわからない」(53.5%)が最も高く、次いで「自分は魅力がないのではないかと思う」(46.0%)、「恋愛交際の進め方がわからない」(43.3%)となりました。

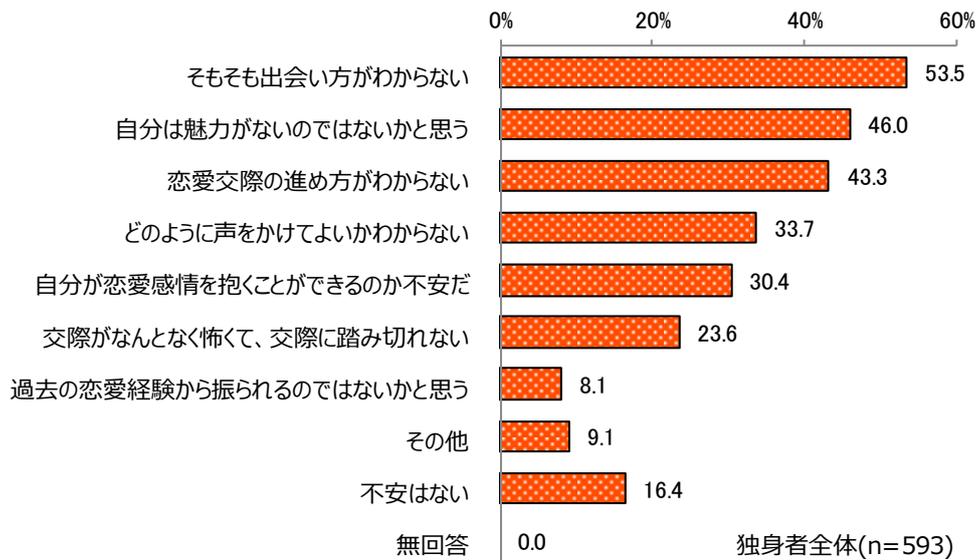


図 12 (B3 交際に関する不安事項)

🔍 クロス集計の特徴的な結果

✓男女差が最も大きい項目は、「どのように声をかけてよいかわからない」で男性が女性を約 10 ポイント上回る結果となりました。また、「自分は恋愛感情を抱くことができるのか不安だ」で女性が男性を約9ポイント上回る結果となりました。

3-2. 恋人を選ぶ上での重視項目 (p194) (複数回答)

<全体結果>

恋人を選ぶ上での重視項目は、「一緒にいて気が楽、もしくは気を使わなくてよい」(84.6%)が最も高く、次いで「相手が自分のことを好きでいてくれる」(71.4%)となりました。

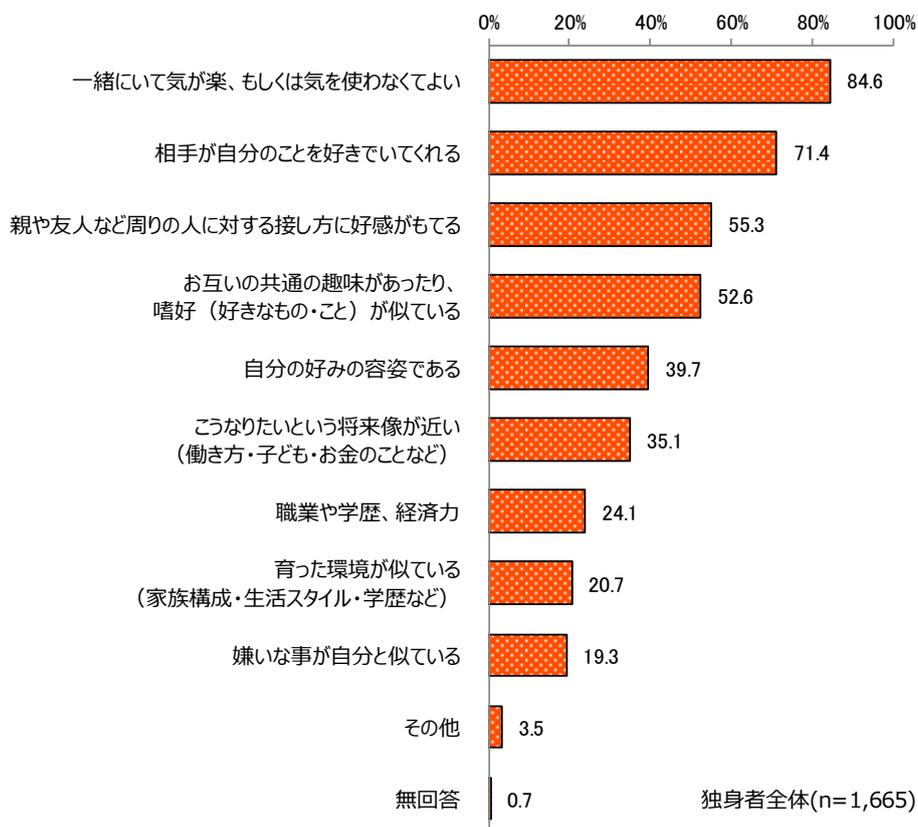


図 13 (B4 恋人を選ぶ上での重視項目)

🔍 クロス集計の特徴的な結果

✓男女差が最も大きい項目は、「職業や学歴、経済力」で女性が男性を約 20 ポイント上回る結果となりました。

3-3. 結婚の意思 (p199)

<全体結果>

独身者の現在の結婚の意思は、「いずれ結婚するつもり」(30.1%)が最も高く、次いで「結婚するつもりはない」(15.7%)となりました。

『結婚の意思がある人』(「できるだけ早く結婚したい」「2~3年以内には結婚したい」「いずれ結婚するつもり」「何歳になったとしても、理想的な相手と結ばれるまでは結婚したくない」の合計を示す)は、70.8%と7割を超える結果となりました。

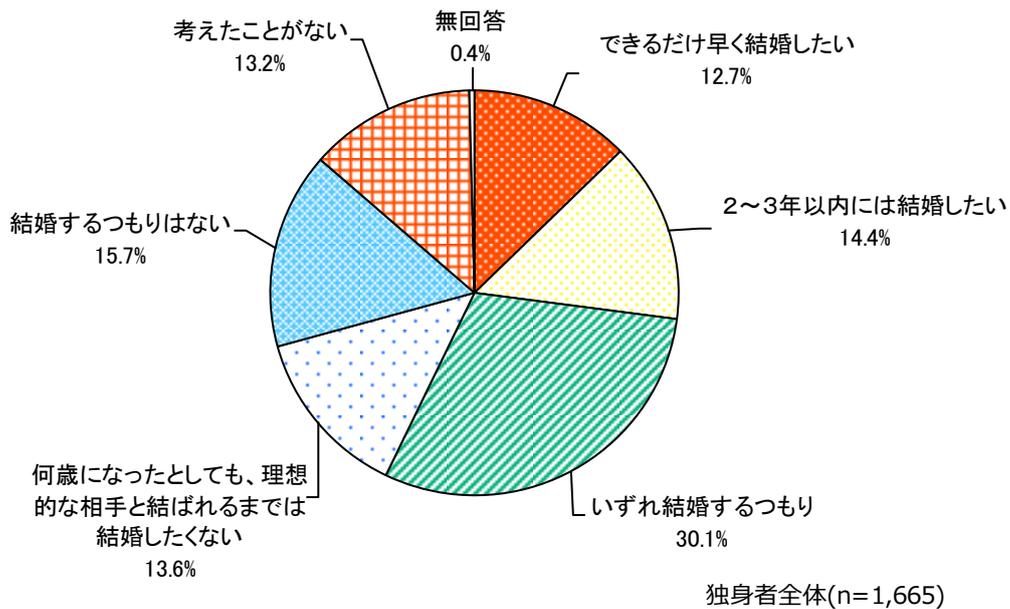


図 14 (B5 結婚の意思)

🔍 クロス集計の特徴的な結果

✓男女差が最も大きい項目は、「いずれ結婚するつもり」で男性が女性を約 10 ポイント上回る結果となりました。

3-4. 独身でいる理由 (p218)

<全体結果>

現在、独身でいる理由を尋ねたところ、最大の理由は、「適当な相手にまだめぐり会わないから」(19.8%)が最も高く、次いで「結婚するにはまだ若すぎるから」(16.8%)となりました。

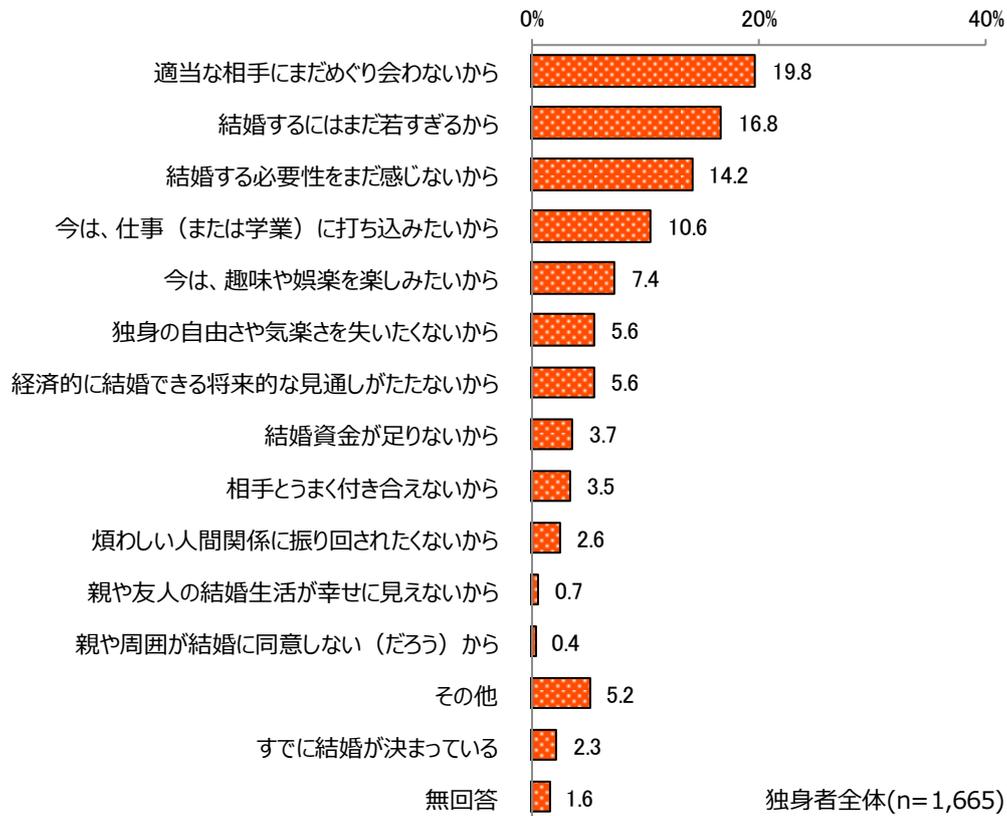


図 15 (B8 独身でいる理由 最大の理由)

🔍 クロス集計の特徴的な結果

✓男女差が最も大きい項目は、「経済的に結婚できる将来的な見通しがたたないから」で男性が女性を約5ポイント上回る結果となりました。また、「今は、仕事（または学業）に打ち込みたいから」で女性が男性を約4ポイント上回る結果となりました。

3-5. 結婚意思のない独身者の意思の変化 (p243)

<全体結果>

「結婚するつもりはない」という意思が変化する場合、その最大の理由としては、「結婚したいと思う相手が現れる」(58.6%)が最も高く、次いで「収入や貯蓄が増える」(14.8%)となりました。

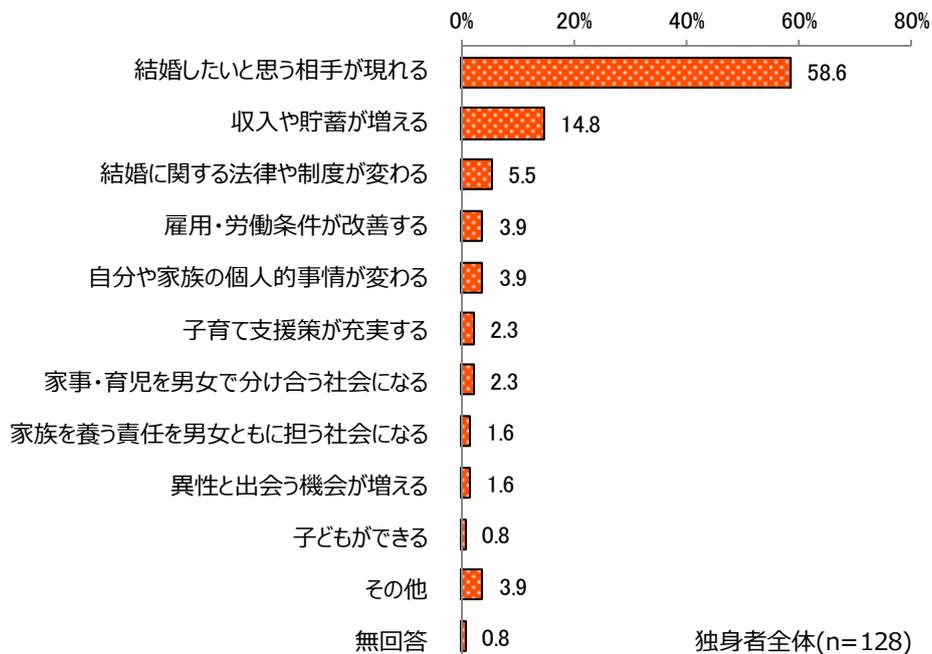


図 16 (B12 結婚意思の変化の理由 最大の理由)

🔍 クロス集計の特徴的な結果

✓男女差が最も大きい項目は、「雇用・労働条件が改善する」で男性が女性を約8ポイント上回る結果となりました。

3-6. 理想の結婚相手との出会い(p250) (複数回答)

<全体結果>

理想の結婚相手との出会いは、「**趣味を通じて**」(64.5%)が最も高く、次いで「友人や知り合いを通じて」(59.9%)、「職場や仕事の関係で」(58.3%)となりました。

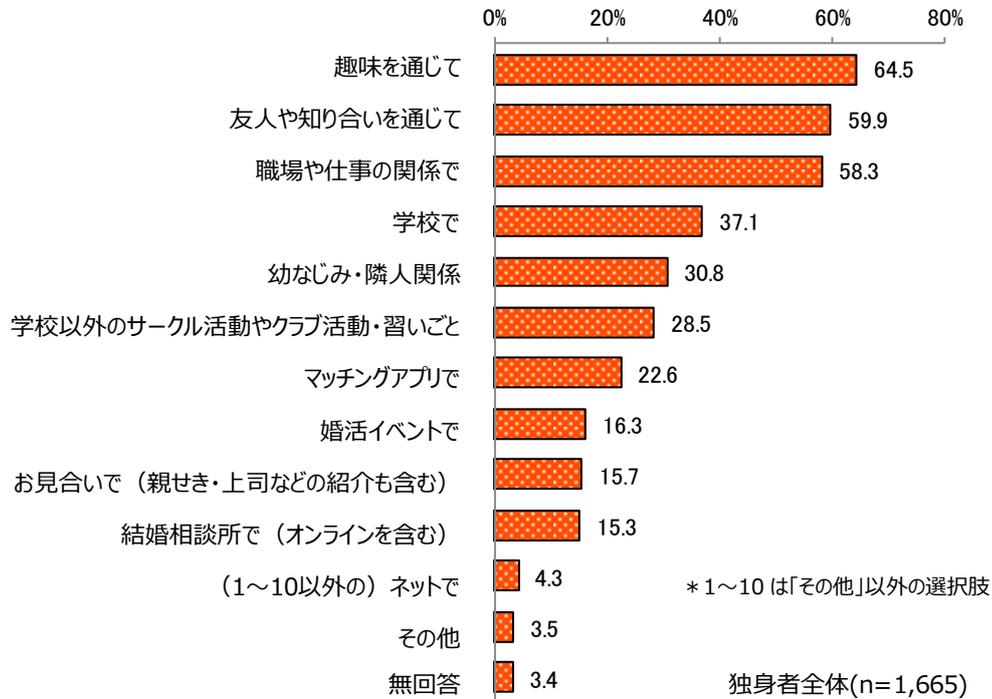


図 17 (B13 理想の結婚相手との出会い)

🔍 クロス集計の特徴的な結果

✓男女差が最も大きい項目は、「**友人や知り合いを通じて**」で女性が男性を約7ポイント上回る結果となりました。また、「**マッチングアプリで**」で男性が女性を約7ポイント上回る結果となりました。

✓既婚者調査結果(2-3.結婚相手との出会いのきっかけ)と比較すると、結婚相手との出会いのきっかけは、既婚者では「職場や仕事の関係で」(31.9%)が最も多く、独身者の理想は「趣味を通じて」(64.5%)が最多となりました。

既婚者の出会いのきっかけと独身者の出会いの理想の差が最も大きい項目は、「**趣味を通じて**」で**独身者の理想が既婚者の実際のきっかけを約58ポイント上回る**結果となりました。

以上